



# 校長室だより

黒部市立村椿小学校  
文責：校長 寺島紀子  
令和6年11月22日  
第27号

## 自分の声で思いを語る、伝える

### ★カラーレでの素晴らしい意見発表

先週末16日(土)、青少年育成黒部市民会議が主催する「黒部市少年少女活動実践意見発表大会」がカラーレで行われました。50年近く続いている伝統あるこの大会に、今回本校6年のAさんが出場しました。「テニスを続けて学んだこと」と題して、3年間続けているテニスを通しての体験と意見を次のように発表しました(要旨)。内容も発表の態度も素晴らしかったです。



私はテニスを続けることで学んだことが二つあります。一つ目は「コミュニケーションの大切さ」です。朝日町のチームでは村椿小学校の子は私だけですがあいさつを交わすことであっという間に仲間になりました。ダブルスの試合でも意識して明るく声を掛け合うことでお互いを信じる気持ちが生まれ、プレーに集中できるような気がします。

二つ目は「気持ちを切り替え、失敗を次に生かすことの大切さ」です。今年の夏、富山県の大きな大会にシングルスで出場したとき、私は緊張とあせりから簡単なミスがいくつも続き負けてしまいました。その時、私は今回の試合の失敗を次に生かそうと思うことにしました。思うようにうまくいかないことがあってもそのたびに落ち込むのではなく、切り替えて次のプレーに生かすことを心がけたいと思います。そのためにも日頃の練習を大切に、相手がだれてあってもいつもどおりにラケットを振ることができる力を付けたいです。正々堂々と自分らしく、気持ちのよいストロークやサーブを決めたいと日々の練習を続けています。

私はテニスを続けることで、学校とは違う新たな仲間ができました。練習や試合を通して根性がつきました。そして何より、テニスがどんどん好きになりました。これからもテニスを通してたくさんの方の事を学び、自分自身を成長させていきたいと思っています。

Aさんは自分の原稿を台の上に置いてはいましたが、それを見て「読み上げる」ということはほとんどなく、約7分もの間、観客の方を向いて堂々と自分の声で「語って」いました。発表する内容がほとんど頭の中に入っていたようです。意味のまとまりごとに適度な間もあり、内容が聞き取りやすかったです。11日(月)に一度、全校の前で発表した経験も生かされたようです。自分の体験と意見を相手に伝えたい、聴いてもらいたい、という思いでしっかりと練習を積み重ねてきたことが十分感じられました。

この日はAさんを含め市内の小・中学校から6名の児童生徒が発表を行いました。どの発表もそれぞれ聴き応えのある内容でした。自分の体験を通じた思いを自分の声で発表するこうした大会の大切さを改めて感じました。

### ★小さなフレッシャーを力に… 子供の成長を感じる玉椿集会

自分自身のことを伝えるという点では、本校の「玉椿集会」もなかなか素晴らしい伝統の行事です。本校が目指す「3つのK」への取組を毎月振り返るといふよさもありますが、さらにそれを自分自身で発表する、あるいは友達の頑張りを紹介する、しかも発表者も司会者もメモを見ず、マイクも使わず肉声で伝える、という「子供の声による集会」であるのがとてもいいと思います。

10月の取組を振り返る玉椿集会は去る11日(月)に行いました。「自分の取組を自分で語るだけ」とはいえ、広い体育館で全校に向けて声を出すのはやはり慣れていないと緊張するもの。それなりに練習が必要です。

当日、1年生は午前中の授業時間を使って実際に体育館でのリハーサルをしていました。中には言葉がすっかり頭の中から抜けてしまっている子もいましたが、そこから再度坪野先生との練習し直しとなり、午後の本番は見事、一人でしっかりと発表ができていました。本当によかったです。

また別の学年には、前回担任の先生にサポートしてもらいながら発表したという子がいましたが、この子も今回は頑張りました。週末に家でしっかりと練習してきたそうです。話す内容をすっかり暗記し、少し小さい声ながらも最後までしっかりと話し切りました。



こうした発表の体験を全員1年間に1回以上は経験できるのも、玉椿集会のよいところです。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名 ( )



## 平均点 10 点アップ! 第 2 回計算(たし算)大会

21日(木)の朝に第2回の校長杯計算大会(たし算の部)を行いました。大会中は全校が静まりかえり、どの教室も2分間真剣に集中して同じ問題(たし算300問 ※1年生は150問)に取り組みました。また今回もオープン参加で教職員8人も参戦しました。

結果発表はその日の給食時にランチルームで行いました。全校トップ10の10名、90点以上の「校長賞」22名、前回よりも20点以上アップした「のびたで賞」10名、等の入賞者を発表すると、拍手で健闘をたたえ合いました。ちなみに全校1位は見事184点をたたき出した6年生男子で、オープン参加の澤田先生は、なんとさらにその上を行く200点でした。これには「ええっ!」「すごい!」と感嘆の声が上がりました。2人とも凄すぎます。

全校の平均点も前回より10点近くアップしました。どの学年の子供たちも計算の力が伸びてきていること、そして、この大会に向けてしっかり練習に励んだ子が多かったことが分かり、手応えが感じられました。来週28日(木)は「ひき算の部」を予定しています。子供たちのさらなる頑張りに期待します。



## シリーズ「教室におじゃまします」11月20日(水)2年英会話の巻

1・2年生は年間10時間、英語の音声や基本的な表現に親しむ「英会話」の学習をしています。この日は動作を表す言葉に慣れ親しむ「からだをうごかさう」の時間でした。授業の始めの挨拶を上手に行い、早速本題に入ります。1年生の時にも出てきた stand up, walk, run, jump, stop, sit down の6つに加え、新たに



clap, dance, eat, sleep, swim も入れた11の動作を、まずは繰り返し発音します。絵カードのイラストとALTのステフ先生のジェスチャーに合わせて何度も声に出し、体を動かすことで、それぞれの言葉とその意味を結び付けて理解することができているようでした。

その後は手を変え品を変えた4種類のゲームに取り組みました。前に出てジェスチャーをする人を“Volunteer?”(やってみたい人?)と聞かれると、最初は「恥ずかしい…」となかなか積極的になれなかった子もいましたが、回数を重ねるうちに「やりたい!」と進んで手が挙がるようになりました。廣瀬先生とステフ先生が連携してネームプレートを使うなど、なるべくどの子にも公平にチャンスがあるように工夫されていました。



本校では英会話の授業を通年で公開しており、今回はお母さん1名が参観しておられましたが、ただ観るだけではなく、自然な形でゲームに入ってくださいました。とりわけステフ先生とのジャンケンには子供たちも興味津々。発音もジェスチャーもよいお手本となって思い切り取り組んでいただきました。ありがとうございました。

今日の目標どおり、みんな英語を使ってしっかり体を動かすことができました。



<おまけのひとりごと>かつて高志野中学校に勤めていたとき、数学の指導の達人の先輩教師がいました。その先生が担当すると生徒の成績はめきめきと伸びていきます。指導のコツを聞いたところ、その一つに「テストはなるべく早く丸を付けて返す」というのがありました。テストの直後ほど生徒の関心が高いので、早めに答案を返し解説をすると理解が進むということです。テストを受ける立場とすると確かにそうだと納得しました。それ以来、私もテストの類いとはにかく早めに目を通して丸付けをし、早めに返すことを心がけています。今回の計算大会も当日の午前中に全校分の採点を必死で済ませ、お昼には結果発表! 大切なこだわりです。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております!

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名 ( )